

平成 28 年度 第 3 回志摩市地方創生審議会 議事概要

日 時 平成 29 年 3 月 17 日 (火)
午後 3 時から午後 5 時まで
場 所 志摩市役所 6 階 602・603 会議室

1 出席者 (順不同・敬称略)

(1) 審議会委員 (12)

柴原行正、清水久代、雨宮 俊、岩崎恭彦、齋藤平、岩田てるよ
山中康寛、庄山敏一、尾間正美、東川清加、中西英雄、竹内千鶴

(2) 市長・副市長 (2)

竹内千尋、加藤倫之

(3) 事務局 (6)

川口富弥、澤村博也、山本富紀、柴原晃、東桂一、柳田裕孝

2 あいさつ (志摩市長)

- ・人口減は志摩市の大きな課題である。
- ・人口ビジョン策定時の平成 27 年国勢調査推計値は 50,669 人であったが、本年 1 月に発表された確定値は 50,341 人と、推定値よりマイナスとなっており、非常に厳しい現実を突きつけられている。
- ・一方、社会増減を見ると、例年 400 人台の転出超過が、200 人台となっており、そういう傾向もでてきている。まだ、その要因は分析できてはいない。
- ・これらのデータも注視しつつ、人口減少に歯止めをかけることを地道にしていかなければならない。
- ・皆様の知恵や知見を聞かせていただき、より実効性のあるプランをしていきたい。

3 協議事項

(1) 人口ビジョンの改訂について

資料 1 志摩市人口ビジョン データ修正及び追加 (案)

(2) 総合戦略の改訂について

資料 2 志摩市創生総合戦略改訂 (案)

(3) KPI の状況について

資料 3 加速化交付金 KPI 達成状況

平成 28 年度具体的な施策 KPI 達成状況一覧

(4) その他

資料 4-1 志摩市人口ビジョン (第 2 版) (案)

資料 4-2 志摩市創生総合戦略 (第 1 期・H28 改訂版) (案)

4 議事

(1) 人口ビジョンの改訂について

ア 事務局説明

「資料 1 志摩市人口ビジョン データ修正及び追加 (案)」について説明。

イ 意見交換

(岩崎)

- ・本日の審議であるが、まずは一つ一つの議題に対していつものように意見をいただきたい。その後、全体を通してそれぞれ地方創生に対して意見を聞きたいと思う。
- ・議題1の審議について、人口ビジョンの改定についていかがか。
- ・P.12の転出者数と転入者数について、要因の分析はこれからであるが、何か思い当たることや気づいたことなどないか。

(清水)

- ・1年前にアマネムを開業し、2年前から転入した。アマネムを開業し、90人のスタッフがおり、その内60人が東京、名古屋、大阪、京都から志摩へ来ている。平均年齢は20代後半。ほとんどが退職せず志摩にいたので、転入に少し貢献しているのではないかと思う。

(竹内)

- ・アマネムが来たことは、このデータに入っているのか。

(岩崎)

- ・入っている。

(竹内)

- ・また何かのきっかけで、2ケタくらい的人数が抜けたりすることがあるということか。
- ・何かじわじわと普通の人達が定住して、ずっと居てくれているという錯覚に陥ってしまうが、ホテルなどができれば人が入り、撤退すれば抜けることがあると感じた。

(岩崎)

- ・それだけではないと思うが、そういった要因もあることを冷静に見ていかなければならない。

(岩崎)

- ・皆さんのところで、若者が増えたとか感じることはないか。40から50代の方が住まわれているなどでも良いので、いかがか。

(中西)

- ・今日は鵜方小学校の卒業式があり、出席した。
- ・鵜方小は106名の卒業生があった。一方で、他地域では児童数が減り統廃合

が行われている。

- ・人口問題は子供の動向でよくわかると思う。語弊があるかもしれないが、卒業生の名字を見ると、昔から鶺方にある名字とない名字があり、8割ぐらいが他町の名字に感じた。8割ぐらい他地域から鶺方に転入してきているようである。
- ・資料に伊勢市への転出が、30数パーセントとある。いろんなことが考えられるであろうが、志摩市に子供を定着させていくための施策を考えていくことが、本日の主題だと思う。このことを考えていかないと、どんどん志摩市からの人口流出が大きくなる。
- ・なんとかみんなで知恵を出し合って考えていきたい。

(竹内)

- ・P.4 観光入込客数であるが、調査地点について聞きたい。英虞湾景観は、横山展望台と横山ビジターセンターの事で良いのか。
- ・この表の調査地点に変更があってもいいのではないか。
- ・大王美術ギャラリーや志摩歴史民俗資料館を市民のものだけでなく、ここを観光客用に使うという視点があれば、この表に入れることでもっと広がりある対策や戦略が考えられるのではないかと思う。
- ・(この表に追加されれば、調査地点の来訪者数が) どんどん増えているのは、なぜかと考える。この表にどの調査地点を入れるかによって、どういうことに力を入れているのかが説明しなくてもわかってくると思う。
- ・この調査地点についてはもう少し考えていただきたい。
- ・ギャラリーと資料館の2つを入れていただきたい。

(岩崎)

- ・地点の選定についての考え方と、この地点の見直しや統合、追加について、どのように考えているかなど、答えていただくということによいか。

(事務局)

- ・資料が手元にないため、改めて回答したい。

(雨宮)

- ・答えられる範囲で、ビジターセンターに入っている利用者数については、職員が手カウントで数えている。28年度の2月までで、6万6千人程度である。
- ・展望台に何人行っているかは、把握していない。

(岩崎)

- ・今のご意見は、現在、観光地になっている地点で、どれぐらいの観光客の入込みがあるかだけでなく、観光地になりうる、潜在的なところも取り上げて

いただきたいということによかったか。

(庄山)

- ・様々な市町の創生会議に参加させていただいている。人口減はどこの市町も危惧している。
- ・人口を増加をさせるため過去には工場誘致が行われた。松阪市では先月スペインの自動車部品メーカーを誘致すると発表があった。工場を誘致しても、5か年計画では雇用者数は180人で、効果が少ないと思った。また工場誘致は北勢で頭打ちになっている。
- ・志摩市は観光において非常に優位である。立地や素材が優位にあり、特にアマナムが拠点をおき、海外セレブを呼び込んでいる。こういった働こうという場所ができることが人口減をとどめる現在考えられる一番の施策だと思う。
- ・過去には、三重県内では名張市が大阪のベッドタウンとして人口が増えた。現在は、元々大阪の人が名張に家を建てたが、その家を売って大阪に戻れなく、その子供達は大阪に行ってしまう、という流れが色濃く出てきている。
- ・志摩市は観光があり、国立公園の関係で国からもお金が下りてくる。今がチャンスであると思う。そのような外からの力を集約して、ここがチャンスであるので、じわじわ増やすのではなく一気に増やすきっかけを作っていたらと思う。

(柴原)

- ・今からスポーツ関係、スポーツがメインで増えていくと思う。
- ・里海トライアスロンが日本で一位になった。今後、選手がどっと入ってくると思う。トライアスロンは、一人の選手に対して最低5人のサポートメンバーが付くと言われており、大会前々日から相当な人数が志摩に入ってくる。
- ・ランキングが1位になったということで、関西・東海エリアの大学生のポイントが獲れる唯一の近場の大会になる。皇學館や三重大の選手が既に来ているが、唯一近場でポイントが獲れる大会であるので、途端に大学の合宿等も入ってくると思われる。そうなれば、脚光を浴びてくる。学生に志摩がいいね、と思ってもらえれば、住みたいという学生も出てくるのではないかな。
- ・今、下がったものをすぐどうするというのは、難しいと思う。
- ・スポーツで若い人に志摩に魅力を感じてもらおう、幸い三重国体やオリンピックも近い、ビーチバレー、ビーチサッカー、トライアスロンなど合宿をしてもらって、定住をしてもらおう。
- ・最初は来てもらった人に対し、良い印象を持ってもらい。次は家族で来てもらおうというスタンスをとってもらえればと思う。

- ・ここ（入込客数の表）にロードパーティがあるが、サイクリングフェスティバルやツーデーウォーク、トライアスロン、まだメジャーになっていないが、ビーチサッカーやビーチバレーについても、推移を載せ、スポーツでもこれだけの人が来ている、ということを入れてもらえればと思う。
- ・スポーツ観光都市宣言もしているので、観光とスポーツがうまくマッチすれば、志摩市は大きく化けるような気がする。
- ・（参加者に）アンケートや直接聞くと、志摩はすばらしいや、泳いでいても底が見える海は見たことがないと言ってもらっている。

（岩崎）

- ・観光も多様化・多元化してきている。ここに載っているのは、伝統的な意味での観光地であるが、発言いただいたような観光の視点をどう入れるかを、検討して図や表に示していただけると良いかと思う。

（清水）

- ・私達はできるだけ地元の文化や伝統を宿泊いただいた世界の人・日本の人に持ち帰っていただきたいと思っている。横山展望台を調べるとトリップアドバイザーで10位に入る展望台である。すばらしいところがある。
- ・サイクリングで、安乗とか文楽とか横山とか回ってもらうということも考えている。
- ・あと補足であるが、60人と言ったが、家族を入れれば100人はいると思う。
- ・ナショナルパークに選ばれているし、すごくきれいなところで、みんな一生ここに住んでもいいと言っている。
- ・家も他と比べると安く、安いわりに景色がキレイである。星もキレイで、人間が住むところという感じがある。
- ・自分が今まで経験したことがないことが経験できる、すばらしい場所だと思う。

（柴原）

- ・私達はここで生まれているのでわからないが、レースできた人を浜島で案内すると、「わあ。」と声をあげる。「どうした。」と聞くと「潮の香りがする。」という。潮の香りが全然違うらしい。
- ・それだけ、志摩と他所とではちがうのだろう。

（岩崎）

- ・よくいうよそ者の視点ですね。重要なものの見方がそこに含まれていると思

いますので、地方創生によそ者の視点をどう位置付けていくか、従来から取り組んでいることと思うが、検討いただきたい。

(事務局)

- ・先ほどの竹内委員からの質問について、P.4の表の調査地点に掲載する基準については、説明文に記載をしている。
- ・基準は「なお、19の調査地点は、年間の入込客数が5万人以上または特定時期（月間）の入込客数が5千人以上となる観光地点」となっている。
- ・「英虞湾景観」の内訳は横山ビジターセンター、安乗崎灯台、賢島スポーツガーデン、長沢農園イチゴ狩り…等いくつかの地点やイベントを合わせている。純粋な英虞湾ではなく、阿児町中心のいくつかの調査地点の合算データとなっている。

(柴原)

- ・それはバラしておいた方がいいのではないかと。細かな数値が見えないと、細かな検討ができない。

(竹内)

- ・ただの指標で何万人以上というのではもったいないので、もう少し使い方を変えた方が良くと思う。

(雨宮)

- ・さきほどからナショナルパークが出ているので、取り組みについて説明させていただきたい。
- ・昨年7月に伊勢志摩国立公園が、全国に33国立公園がある内の8つに選ばれた。
- ・環境省、三重県、基礎自治体と一緒に、「ステップアッププログラム2020」、2020年までの行動計画を昨年の12月に策定した。
- ・これに基づいて、環境省では横山に10億円の予算を付け、横山展望台をはじめビジターセンターなど、どういった改善ができるかを検討している。
- ・また、この予算は国から順次交付金として、近畿自然歩道や現地展望台等で、古くなった看板を直したり、多言語化したり、トイレの洋式化など基盤の整備が進められる予定である。
- ・インバウンド増加に向け、今後、行動計画を作り替えながら、この地域の多くの人の意見をいただきながら、より有効なものにしていけたらと思っている。
- ・話は変わるが、ナショナルパーク化で目指す一つの目標として、「高品質・高付加価値のインバウンド市場を想像する」というのがある。私なりにこの

地域のポテンシャルを考えたときに、やはり「真珠」と「海女」の2つではないかと思う。

- ・最近、真珠のネックレスを買った。この地域でしか獲れない3mmのベビーパールネックレスで5万5千円だった。ネックレスには120個の真珠が付いていた。120個で5万5千円、これが高付加価値か、どうなのかと思った。
- ・売れば売るほど良くないではよろしくないなので、いろいろな工夫をすることで価値を付けていくことが大事であると思う。
- ・海女漁の体験プログラムを志摩自然学校と横山ビジターセンターで提供している。価格は2万円。全国のエコツーリズム事業者からは、「安すぎる。」と言われる。
- ・もっとこの地域しかできないことは、もう一工夫してお金をたくさん落としていってもらおう。お金を取ることは、地域自然資源に対して地元がどれだけ責任と誇りをもっているかの表れともよく言われるので、そういった取り組みを考えていくことが大事ではないかと思う。

(中西)

- ・新聞報道で「天空のカフェ」というのがあった。教えていただきたい。

(雨宮)

- ・前回、中西さんに意見をいただいたように、横山展望台は現在飲食をする環境にない。それをすこしでも改善しつつ、ゆっくり景色を楽しんでもらい五感で景色も感じてもらうような施設、カフェを整備することを検討している。
- ・どういった形になるかわからないが、検討している。
- ・「天空」というのはなじみがないと思うが、目指す方向としては、英虞湾をより立体的に、よく空撮の映像があるがそういう形で見てもらえないかという方向性で、「天空」としている。

(2) 総合戦略の改訂について

ア 事務局説明

「資料2 志摩市創生総合戦略改訂(案)」について説明。
(事業の廃止が2件、新規追加が4件。)

イ 意見交換

(齋藤)

- ・志摩市は立命館大学と三重大学と包括連携協定をされているかと思うが、その中で、施策 NO. 1-6 について、東北大学と連携され東北大学の専門性について説明をいただきたい。

(事務局)

- ・今年度、東北大学と連携させていただいた。

- ・今後、自然資源の枯渇が考えられる中、ただ単に制約を受け入れて今の利便性を失うのではなく、その制約を予測して今の生活と同じか、それ以上にどうすれば楽しんで生活していけるのか、という視点で取り組みをしてもらっている。
- ・具体的な活動として、90歳ヒアリングという活動をしている。
- ・昭和初期に志摩で生活をしていた方に、当時の志摩の生活がどのようなであったかを伝えていただき、その中から豊かな暮らし（今は便利になったが心の豊かさが無いといったこと）を教えていただき、将来この地で豊かに暮らす方法を考えて実践していく、それを政策に取り入れていくという取り組み。

(齋藤)

- ・内容については良い取り組みをされていると思う。これを東北大に依頼した理由が見えない。

(副市長)

- ・東北大学大学院の環境科学研究科が取り組んでいるのは、JST（科学技術振興機構）の RISTEX というのがあり、その中の「未来の暮らし方を育む泉の創造」というプロジェクト分野がある。
- ・東北大学では、これから人間の住むあり方を考えていくと、化石燃料に頼れない、地球温暖化の問題、生物多様性が喪失して人間が依存している生態系のサービスも減るとか、こういうことが30年後くらいに現実として想像される。このことを見越して、どうやって日本で暮らしていくのかを過去の例を見ながら、また未来のことを想像し、今の時期に新しいことを考えないと生きていけないのではないかとこのころに問題意識がある。
- ・東北大学では、秋田の北上、兵庫の豊岡、鹿児島島の沖永良部島、そして志摩の4つの地域でプロジェクトを動かしている。
- ・沖永良部島では総合戦略の中にこのプロジェクトが入っている。
- ・去年から取り組みを行い、こういうライフスタイルがあるというところまではできた。しかし、具体的に施策にして実行していく段階で何かしらの予算が伴うこともあるので、今回追加した。
- ・東北大学のプロジェクトとして行っているので、東北大学に特異性があるというところである。

(岩崎)

- ・廃止となった事業については、いずれまた事業として提案があると思いますが、事業化する際には考えをしっかりと示していただきたい。また、きちんと年限を切って事業をしていくことも大事であると思うので、よろしくお願ひしたい。

(3) KPI の状況について

ア 事務局説明

「資料 3 加速化交付金 KPI 達成状況」を説明。

イ 意見交換

(岩崎会長)

- ・資料 3 の「平成 28 年度 具体的な施策 KPI 達成状況一覧」については、行政改革審議会で審議される。この場での審議は「加速化交付金 KPI 達成状況」に限らせていただきたい。

(中西)

- ・加速化交付金、そのものがわからないので教えていただきたい。

(事務局)

- ・地方創生を推進するに当たり国から出ている交付金の一つである。

(副市長)

- ・平成 28 年度地方創生を事業展開することを加速させていくために国が準備した 27 年度補正予算である。
- ・地方創生の交付金は多数あるが、平成 28 年度以降は 2 分の 1 補助になっている。加速化交付金については、全額国からもらえる。市の負担はない。

(中西)

- ・28 年度はどのくらいの金額があるのか。

(事務局)

- ・27 年度補正であるので、28 年度はない。平成 28 年度は別の交付金になる。

(副市長)

- ・27 年度補正予算なので、繰り越しをすることで、平成 28 年度にある。

(中西)

- ・これは国から出る交付金で、それを該当する事業に充てるということか。
- ・事業主体は市になるのか。市が直接実施するということか。

(副市長)

- ・市が国から交付を受けて、実施をした。事業主体は市であるが、委託事業もある。
- ・加速化交付金を申請する時点で、この事業にあてるということを申請している。

(中西)

- ・資料の 1600 万円は、レンタサイクルやサイクリングイベントのどういうものにお金が使われたのか。

(事務局)

- ・これは交付金額ではなく、事業効果である。この事業でどれだけのお金が落ちたかを表している。

(副市長)

- ・この表のタイトルを正確に言うと、「平成 27 年度加速化交付金によって進められた具体的施策の KPI の達成状況」になる。

(中西)

- ・簡単に言えば、国から地方創生のために降りてくる交付金があり、志摩市が受けて地方創生に使うという、理解でよいか。

(副市長)

- ・(表の数字は、) 例えば、サイクリングでいえば、サイクリングをしている団体を集めて協議会を立ち上げ、組織の体制を整えたり、モデル事業を行ったり、レンタサイクルを行ったりする支援を行う。
- ・支援をして、その団体の儲けが 300 万円であれば良いと予想していたが、1600 万円くらい利益があり、1600 万円の効果があったというような話である。

(中西)

- ・説明を受けないと、この表ではわかりにくい。

(岩崎)

- ・この資料はホームページ等で公表されるのか。資料だけでは、一人歩きしてしまう恐れがあるので、わかりやすくしていただくよう、検討いただきたい。

(事務局)

- ・いろいろな意見をもらうため、公表する予定である。

(4) その他

ア 事務局説明

- ・「資料 4-1 志摩市人口ビジョン（第 2 版）（案）」、「資料 4-2 志摩市創生総合戦略（第 1 期・H28 改訂版）（案）」については、第 2 回目の審議までを反映したものである。
- ・改訂については、本日いただいた意見を踏まえて、再度修正したものを発行する。発行後は皆様の手元へも送付する。

イ 意見交換

- ・意見なし

5 各委員から一言

(岩崎)

- ・一人ずつこれまでの3回にわたる審議会の議題や、総合戦略や人口ビジョン、またそれぞれに地方創生について取り組まれていることと考えていること、地方創生に寄せる思いなど自由にご発言をしていただきたい。よろしくお願ひしたい。

(柴原)

- ・子供の数が減少していることを今すぐどうするということを考えても、無駄であると思う。これを踏まえてどうするのかを考える方がスムーズであると思う。
- ・先ほども話をしたが、私の場合は、スポーツ観光を核として、全国からいろいろな人に来ていただいて、私達はこの地域に住んでいるので分からないが、他の地域の人達には非常にすばらしいと喜んでもらえている。そこに私達とズレがある。その辺りを意識していきたい。

- ・先日、台湾の高雄市に招待された。その時に泳ぐ川を見たが、汚かった。ゴミやノリが浮いていた。それでも、台湾の人だけでなく、他の国からもよろこんで参加していた。志摩の海は底が見えて、魚も泳いでいてこんな素晴らしいところはないと言っていたが、このことかなあと思った。

- ・これがきっかけで、高雄市から選手20人が今回志摩市に来ることになった。選手に付随する人がいるので、4~50人になるかと思う。志摩市の魅力を十分に伝えさせてもらい、高雄市と志摩市で提携できたりすれば、国際大会もできるだろう。そうすれば欧米からもお客さんが来るようになったりする。

- ・とにかく志摩を元気にしたいと思うので、皆さんよろしくお願ひしたい。

(清水)

- ・繰り返しになるが、志摩は本当に良いところなので、自信を持って世界中の人、国内の人にアピールをしたいと思う。

- ・一番人気があるのは、浜島ツアーと言って、どういう風に地元の人が暮らしているかというライフスタイルツアー。

- ・浜島のスタッフの家に連れて行って、神棚を見たり、犬とたわむれたり、地元の喫茶店、漁師さん、市場、そういう私達の普段の何気ないスタイルを見せることが一番人気ある。

- ・先程の資料に、昭和初期に戻って何が幸せか、心豊かかというものがあつた。私達の施設は交通の便が悪いところがほとんどで、志摩はその中でも都会である。

- ・ブータンに行った時に、ショッピングセンターなど何もないが、みんなすごく笑顔であつた。なぜかという、いつも家族と一緒にご飯を食べていて、星も月も

自然もキレイだった。国の70%が緑で、気持ちが満たされているので、何も買うものはないが、そういうのって本当の幸せではないかと思う。

- ・志摩に来て、日曜日の夜はほとんど車がいなくて、みんな家族でご飯を食べていると話を聞いた。すごく良いところだなあと思う。家族と仲良くご飯を食べることは、都会に行くとそういうことがだんだん無くなっていく。
- ・ここでは隣の人が何をしているかもわかっているし、そういう人とのつながりが濃いのが魅力的だと思う。
- ・一回ここに来たお客様がまたここに来たい、いずれは住みたいと思うようになれば最高だと思う。ますます元気にしていきたい。

(雨宮)

- ・ナショナルパーク化を進めるにあたってのコンセプトが、ナショナルパークの最高の魅力は自然そのもので、自然環境を開放することによって、非日常的な体験を外国人にしてもらおう、というものである。
- ・これを志摩で考えてみると、自然そのものよりも自然と人が共生した姿という風に考えるべきかと思っている。
- ・その中で非日常的な体験をしてもらうには、地域の人々の日常生活を、外から来た人には異なる日常であるので、どうやって提供する仕組みを作っていくか、というのが大事かと思っている。
- ・志摩市がガイド養成など実施しているので、その方達の活躍があれば素晴らしいインバウンドの受け入れ態勢になるのではないかと思う。
- ・環境省では、2020年までに伊勢志摩国立公園の外国人利用者数を3倍にするという目標を立てて取り組んでいく予定で、交流人口を増やしていく計画である。

(岩崎)

- ・美しい自然や人を観察するのが私の仕事ではなく、行政を観察するのが私の仕事である。ぜひ地方創生の進行管理をしっかりやっていただきたいと思う。
- ・いろいろな事業が行われ、全てが新規事業である。これをきちんと情報発信していくことも大事と思う。しかし、おそらく、このたくさん事業をずっと行い続けることはないと思う。しっかり効果を見据えて、廃止するものは廃止し、改善するものは改善する、新規に追加するものは追加するなど、できることから、たえず改善を図ることが地方創生だと思う。この改善のプロセスをどのようにして透明化を図るのが重要だと考える。
- ・今回も廃止する事業があったが、廃止したままではなく、また事業に起こしていくことを監視していく。私も、私の立場から観察していきたいと思う。

(齋藤)

- ・地方創生の取り組みは人口問題が国の施策の一番のきっかけとなっている。
- ・資料1のP.12であるが、一般的に進学就職の時に転出が多い。資料を見ると、「15

歳から 19 歳」と「20 歳から 29 歳」では大きな開きがある。進学するであれば、「15 歳から 19 歳」もかなりの割合があると思われる。

- ・しかし、大学進学の際に住所を移していないということが多く、就職する際に住所を移す必要があり、「20 歳から 29 歳」の転出が極端に多くなっている。
- ・住所を移さないというのは、何かアイデンティティを持っているのではないか、できればUターンで戻ってきたいという気持ちを持って進学しているのか、と読み取れることもできる。
- ・すぐれた自然環境や資源があるという中で、この子達が帰ってこられる、無粋に言えばお金を稼げる場を本気で考える必要があると思う。
- ・今ある雇用の場で、出ていった子供達、移住しようとする人とのマッチングの場を早急に考えていただければと思う。

(岩田)

- ・小中学校の立場から、子供達がそれぞれの地域で大切に育てられているというのは志摩に来て思う。
- ・小規模校はどんどん無くなって統合されていくが、自分の住んでいる地域がどんなにステキかを地域の事を学びながら、こんなところだったんだと気づきながら小学校から中学校を過ごしている。
- ・そこから進学でいったん志摩を出ていくことが多いと思うが、出ていくことで気づくことが多いと思う。本当の志摩の良さは、志摩にいるとき以上に、離れてから思えることがたくさんあるのではないか。
- ・その子供達が大人になって帰ってきて、家族を作っていく、そんな場になって欲しい。そのための働く場をつくるのも大事であるが、外へ出て学んで働く場を作るような子供達を育てていきたいと思う。
- ・純粋でまっすぐ受け止める子供が多く、志摩の良さを持ったまま外に出て、ここに帰ってきて、ここで働き、ここで働けるものを作ってほしいと思う。

(山中)

- ・国際営業でインバウンドの強化で話をさせてもらうことがあるが、ドイツでアジアの観光旅行先の調査をとったところ、1位がタイで、日本は下位であった。
- ・日本人にその理由を質問すると、距離が近いからや、物価が安いからと答えが返ってくる。実はタイは来てくれとアピールがあり、日本は来てくれとアピールがあまりないから、というアンケート結果であった。
- ・日本は自分のことをアピールするのが苦手な国民性であり、良いものをつくれれば来てくれると思っている。しかし、国が違えば文化も違い、考え方も違う。アピールをしないと誘致などが難しい。
- ・これは旅行先の話であるが、人口の問題でもつながるところがあるのかと思う。
- ・審議会で皆さん熱心に話をしていただいている。すばらしい場があるのは伝わってくるが、こういう場をもっとアピールして繋げていくことが大事だと思う。

(庄山)

- ・国では全ての省庁も地方創生に取り組んでおり、金融庁や財務省も金融機関向けに取り組みをしている状況がある。ある意見交換会で、どこの自治体が熱くないですか、という質問をするところもあった。どこの自治体も必死で取り組んでおり、私の中では志摩市が一番ホットであると思う。
- ・先ほども働く場所が必要だということで、「そこに住みたい。→働く場所がなければだめだ。」というロジックになる。3か月位前に、やはり東京一極集中の傾向が続いていると出た。「東京の魅力に勝つものは地方ではつくり出すのは難しい。けれども、地方でも魅力のあるところを競争しながらつくって、地方をなくすのではなく維持していくことが大前提だ。」と感じている。
- ・事業は行政が主で行うとうまくいかず、やはり核となる民間の事業者が必要となってくる。地方創生が叫ばれた、最初の頃には必要な人材は、若者、よそ者、変わり者と言われた。そういった核となる人材・企業をどのように確保し、行政や金融機関がバックアップしていくかがカギになるように思う。

(尾間)

- ・金融機関としての立場で話をしないといけないかと思ったが、この場に参加するたびに自分の立場が、ここで子供を育てていく、生きていく、そして、これからもここで生きていくという立場に変わってきた。そのため、発言する立場が違ってもかもしれないが、あえて発言させていただく。
- ・この場に来て、志摩市の危機的状況を改めて知った。第1回の時に、東川さんが子供達などに、もう少しコンパクトな形で発信してはどうかという話があった。その時には私もそうだと思った。
- ・私はこの会に参加して状況を知ったが、私の娘は知らない。
- ・彼女は高校生で、「とりあえず大学は東京へ行きたい。」と考えている。「東京に何の勉強をしたいのか、どこの大学に行きたいのか。」と聞くと、「とりあえず東京に行きたい。」と答える。「とりあえず自分の行ける大学。」「行きたい方向性」程度の考え方だけで「東京に行きたい。」と言っている。「まあ、なんてこと。」と思っていたが、この話をする中で、志摩の良さに自信が出てきたので、「行って来たらいいじゃない。」と思うようになった。
- ・外回りの時に、志摩にお越しになられたお客様に「志摩は困るところもあるんですよ。」と話をすると、「なんで君達は志摩の良さがわからないのだ。」とこんこんと説教されることもあった。
- ・そういった経験や皆様の話を聞かせていただいて、改めて危機感を感じ、みんなに現実を把握してもらい、もっと志摩を何とかしていかないと、という気持ちを持ってきた。
- ・このような機会を設けられたことで、こういう風に思える人がいるということは、このような機会が市民みんなに与えられればよいのではないか。会議ではなく、

- おそらく広報に載せてもみんな来ないので、何かいい方法はないかと思う。
- ・まずは知ることからが大事ではないかと切実に思う。

(中西)

- ・「ケンミンショー」というテレビ番組がある。なかなか面白く時々見ている。
- ・この番組の魅力は、お国自慢だと思う。それぞれの県の芸能人が、風景や食文化、お祭りなどを自慢したり、たまに他県のことを悪く言ったりとそれが面白い。それぞれの地域の良さがある。
- ・この会議に参加の方、特に志摩以外から来ていただいている方に、すばらしいと言ってもらったことに本当に感動をしている。我々はここに生まれ育ち、当たり前だと思っていることが、他所に負けないほどの魅力があると言ってもらい、本当にありがたいと思っている。
- ・私は自治会代表として来ている。地域住民ができることは、この自然を守ること、環境を美しくすることではないかと思う。
- ・自慢ではないが、鵜方駅の北側に見事に菜の花が植えられている。これは、伊勢志摩サミットのおもてなし作戦がきっかけで、鵜方自治会の元役員達を中心とした20人位のグループがグループ活動で行っている。四季折々の花を植え、ちょっとした親切運動を心掛けている。
- ・そういったことが行政を動かし、行政と一緒にあって、そういう姿が地方創生を動かすのではないかと思っている。これからも市長よろしく願いたい。

(東川)

- ・この会に参加するにあたり、私の立場として、地域の出来事を発信するという仕事柄、地方創生について本や人口ビジョンを読んだりして、第1回では、この危機的状況をもっと知ってもらう必要がある、と話をさせてもらった。
- ・私も志摩で生まれて、志摩で育って、志摩の中で仕事をさせてもらっている、本当にありがたい立場である。
- ・元々若い時には、「何もない。やりたいと思ったことがすぐにできない。なぜこんな田舎に生まれたのか。」と志摩が大嫌いであった。「とりあえず、外に行きたい。都会に出たい。」という気持ちが強かった。
- ・都会に出て生まれ育った地域の良さはなんとなくわかっていたが、心の底からはよくわかっていない。何か欲しいものがあってもいいものがない。そんな田舎に生まれたことが嫌だと思っていた。
- ・私の意識を180度変えたのは、うちのケーブルテレビではないが、ケーブルテレビの番組だった。私の生まれ育った安乗を取り上げて、どんな思いでどんな活動をして、こんな思いで自分達の地域に誇りをもっているという人達の番組であった。
- ・それをたまたま目にして、自分が恥ずかしいや嫌だと思っていたことが本当になさけない、と思うような番組であった。
- ・それを見て、自分の生まれ育った土地の良さを感じることができ、こんな番組を

- 見て、私のような志摩って良いところないという人の気持ちを変えられるような番組がつくれればいいな、という気持ちで、ケーブルテレビに入社した。
- ・そういう思いで、ずっと番組作りを続けてきた。入社して7年目になるが、たくさんさんの番組、いろいろな人達、いろいろな地域、志摩の隅々に行っているいろいろなことを見てきた。本当にすばらしい志摩に生まれて良かったなあ、と思う。
 - ・うちのケーブルテレビは、放送エリアが志摩市以外に、松阪市、大台、大紀、明和町が放送エリアである。
 - ・今までは、志摩市の中で、志摩市のことを撮って、志摩市だけのことを放送する番組を作っていた。この4月から会社の統合で、番組自体が松阪エリアと志摩エリアが統合され、一つの番組になった。
 - ・一つのニュース番組で、松阪市や大台や大紀の内容があり、その中で志摩市の内容もあるという番組編成に変わった。
 - ・すると、志摩市の人達から、すごいお叱りをうけた。
 - ・「今までは志摩市のことをケーブルテレビで見れて、『こんなことがあるんや。』『こんな人がおるんや。』『こんなことがあったんや。』と、いろいろなことを知れたのに。あんたのところの番組を見ていたら、松阪のことや明和のことがやってくる。私達はそんなことを知りたくないんだ。志摩のことだけが見たいんだ。なんでそんな風になったんだ。戻してくれ。」という意見がとても多かった。
 - ・正直、私達も志摩の人間で、志摩が好きで、志摩の事だけを取材していきたいという気持ちはあるが、会社員なので会社で決まったことに従うしかないのです。
 - ・他地域に行って取材をすることもありますが、志摩市の人からしかそういう意見は出ない。松阪市も松阪市で特化した番組をしていたが、志摩市のニュースが流れることに対して意見はない。
 - ・志摩で取材をしていると「あんたらの番組は、志摩市の話題がなくなったやんか。」とすごく言われる。
 - ・逆に言えば、志摩市の人達は、手前味噌ではあるが、「うちの番組を見て、志摩市の事に関心を持っている人達がこんなにも多かったのか。」と思うくらい、(番組改変について)意見をいただくことが多かった。
 - ・であるので、地方創生や人口ビジョンについて、しっかり発信をすれば、興味を持ってどうにかしなければならぬ、このような現状が志摩市にあると受け止めて、真剣に考えてくれる人達がたくさんいる地域だと思う。
 - ・発信の仕方によって、市民の意識を変えられることができるのではないかと思う。発信の仕方をもっとしっかり考えていったら良いのではないか。
 - ・何かしらこういったことを来年度発信していきたいと、審議会委員をすることで考えるようになった。
 - ・いろんな施策や市民サービスを考えているのであれば、しっかり発信できるもの、どういう風に発信して市民に活用してもらえるのか、発信の方法を考えた方が良いと思う。

- ・他の行政の人と話をしても、情報発信をどうするかを課題にしている方が多い。正直、情報の出し惜しみをしているのではないか、と思うことがある。宣伝することで、人が殺到しても困るので、この程度で良い、と言う行政の方もいた。
- ・せっかく良いことをやっても、知らなかったという人がいるのはもったいない。
- ・なにか発信する方法を私の立場からも考えるし、行政も考えた方が良いのではないか。情報発信をしっかりとすることで、熱い思いを持った人が多い市であるので何とかなるのではないか。

(竹内)

- ・資料 4-2 P.36 について、2点ある。
- ・前回、「文化がない。文化を入れた方がいいのではないか。」と発言をした。しかし、何も変わっていない。
- ・もう一つ、具体的な施策の一覧の「しごとの創出」の5番「高齢者と障がい者とその家族のための観光サービス創出事業」について、「ペットを連れてくる観光客、ペットが連れて来られるなら、もっと高齢者が来るから、それについて何か工夫できないか。」と発言をした。それに対して、『『家族等』と入れたら良いのではないか。』と回答があった。しかし、書いていない。
- ・同じ資料の P.33「6-4 地域の特色を生かしたスポーツのまちづくり事業」と「6-5 地域の魅力を見つけて生かす観光まちづくり事業」がある。このどちらかに文化を文章に入れ込むことが簡単ではないかと思う。
- ・「6-4 スポーツのまちづくり」は書いてある内容がスポーツに特化しているので、「6-5 観光まちづくり」の方が入れやすいのではないかと思う。ここにあるのは、歴史文化の中の文化だけである。そうではなくて、先程私が調査地点に大王美術ギャラリーと歴史民俗資料館を入れてほしいと言ったことに連携する話である。
- ・志摩の文化はあなどれない、芸術文化、人材もすごい。今、清崎先生が、フランスのアンティープに招待されて、2か月間、絵を描きに行っている。
- ・アーティストレジデンスという仕組みである。市長もアーティストレジデンスに興味を持たれているような感じであった。私は、志摩は大いにやるべきであると思う。志摩は食べることから、文化からスポーツから全部高品質である。
- ・高いことをもっと発信するためには、文化芸術がしっかりしていて、それに取り組んでいる、他の地方とは違い、「地域芸術祭」をすとかではなく、志摩市の独自の、世界とつながった芸術文化、最先端の現代美術も取り入れた、全ての歴史から全部ひっくるめた「文化」に、もっと志摩市は価値があるので、それをここの中に取り入れていただきたい。
- ・私は市民公募でここに来たが、美術をされていてネットワークを知っているので、発言させていただいた。よろしく願いしたい。

(市長)

- ・どなたの意見もありがたく、すばらしい意見で、地方創生に限らず、志摩市の施策の中に取り入れていきたいと思う。

- ・本日は議長も傍聴しているので、絶対できる。
- ・いろいろな話があったが、価値をもう少しつけてやるべきだと思った。
- ・先日、合歓の郷に海外の富裕層の皆さんを送り出すエイジェントの方達が来た。
- ・その際に、アメリカのツアーエイジェントの方が、サミット乾杯酒の「作」を飲み、その製造元の社長に値段をきいたところ、「1瓶4,000円」と回答が返ってきて、非常に驚いていた。「フランスやアメリカなどのワインと比べたら10分の1である。もっと高くても良いのではないか。」と言っており、我々の価値基準とは違うのかなあと考えた。
- ・ネットエイジェントの方の話では、「志摩が伊勢や鳥羽と違い旅行商品の金額に特異性が出ている。志摩は、3万円以上の旅行商品が昨年対比で昨年は8%だったが、今年は16%で、倍になっている。もう少し付加価値の高い商品に取り組んでいった方がいいのではないか。」、という話であった。
- ・同様に、中部地域から発着の方が20%位、大阪・近畿圏から20%、県内が16%、東京からが6%位ということであった。意外に、近いところからもたくさん来ているということであった。
- ・本日の話も含め、すばらしい志摩の価値について、様々な意見をもらった。
- ・竹内さんの話もまさしくそうで、清崎先生はアンティークに滞在されている。
- ・志摩市には空き家が多く、リノベーションをして、志摩市に投資をしたいという人もいる。空き家を活用して、芸術家に滞在をしてもらったり、シェアハウスやゲストハウスを作ったりとか、チャンスはむしろいっぱいあると思っている。
- ・今回の地方創生は、自分創生だろうと思う。志摩の人や志摩に興味を持っている方がもっとチャレンジングにやれば良いと思う。そのことで、志摩の可能性が広がってくる、と思っている。
- ・来年度4月以降は、もっと多くの人に来てもらい、意見をもらいながら、「とにかく実践する。」をしていきたい。

以上